

年齢および胚評価別にみた高濃度ヒアルロン酸含有培養液使用時の胚盤胞移植成績

玉田 いつみ¹、中野 達也¹、中岡 義晴¹、森本 義晴²

¹医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

²医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】高濃度ヒアルロン酸含有培養液 HiGROW OVIT Plus HA（以下 HA）は、移植時の妊娠率および出生率向上が報告がされている。当院では保険診療において反復不成功症例を中心に HA を使用している。本研究では、HA 使用時の移植成績を年齢および胚評価別に解析し、胎児心拍確認（FHB+）率および流産率からその臨床的意義を検討した。【方法】2025 年 3 月～10 月に当院で凍結融解単一胚盤胞移植を行った症例を対象とした。症例を年齢別、栄養外胚葉（TE）評価別（756 周期）、iDAsocre 別（615 周期）に分類し、HA 使用（HA+）群および HA 不使用（HA-）群における FHB+率および流産率を比較した。【結果】年齢別では、34 歳以下の FHB+率は HA+群 43.0 %、HA-群 61.1 %、35 歳～39 歳では 39.3 %、57.1 %であり、いずれも HA-群で有意に高値を示した（ $P<0.01$ ）。40 歳以上では HA+群 32.1 %、HA-群 39.0 %で有意差は認められなかった。TE 評価別では、A で HA+群 49.0 %、HA-群 66.2 %、B で 42.9 %、59.0 %、C で 25.4 %、34.1 %であり、A および B で HA-群が有意に高値を示した（ $P<0.01$ ）。iDAscore 別では 6.0-9.9 における FHB+率は HA+群 43.6 %、HA-群 61.9 %で HA-群が有意に高値を示した（ $P<0.01$ ）。1.0-5.9 では HA+で 29.2 %、HA-群 38.5 %であり、有意差は認められなかった。流産率はいずれの解析においても両群間に有意な差は見られなかった。【考察】多くの条件下において HA-群で高い FHB+率が示されたが、HA+群は反復不成功症例を対象としており、群間の背景の違いにより HA の効果が過小評価されている可能性がある。特に高年齢群、iDAscore 低値群および TE 評価 C では有意差が認められなかったことから、HA の使用は成績不良症例における妊娠成立を補助する可能性が示唆された。